



1 観音堂

智秀山観音堂と並んでみえるが開基の時代は定かではない。伝承によると宮島の産屋が設けられたが、それに併せて観音堂も建立されたという。本尊は十一面観音立像、室町時代後期の作である。



2 西向寺と蓮華松

浄土真宗本願寺派 智秀山と号し、寛永二年(一六二五年)僧玄正が開基したと伝えられる。本尊は阿弥陀如来立像。山門をくぐる、眼前に蓮華松の見事な枝振り、樹齡300年を越すとされる大樹である。



3 正行寺と不動明王座像

浄土真宗本願寺派 松見山と号し、昔は天台宗であったが、寛永元年(一六二四年)時の住持明順によって浄土真宗に改宗したと伝えられる。本尊は阿弥陀如来立像、不動明王座像は室町時代後期の作で、廿日市の重要文化財である。



4 鹿の子地蔵

生まれて間のない子や、流産または墮胎した胎児を祀る水子地蔵さんで、祭日は八月二十四日。



5 小林千古生誕地

千古(本名、花吉)は、明治三年に生まれ、明治二十年代(三十年代)にかけてアメリカに学び、ヨロロッパでは黒田清輝や岡田三郎助などの知己を得る。帰国後、白馬会に所属、日本洋画壇に鮮烈なデビューを飾りながら、わずか四一歳の若さで病没する。



6 大イチョウ

イチョウは原始的な裸子植物で、動く精子を持つ。中国が原産といわれ、日本には自生はない。地御前小学校にある大イチョウは、胸高幹圍三八センチメートルの雄株で、廿日市の天然記念物にも指定されている。



じぐせん史跡めぐり

地御前の伝統的な年中行事
★1月とんど
★6月(旧暦5月5日) 御陵衣祭「馬とばし」【地御前神社】
★7-8月(旧暦6月17日) 管絃祭【地御前神社】
★10月第2日曜日 秋祭り【地御前各所】



順路 Aコース…地御前公民館→1→2→3→4→5→6→7→8→9→10 Bコース…地御前公民館→11→12→13→14→15→16

発行年月日/2005年(平成17年)4月 地御前公民館企画運営委員会/まちづくり委員会・福祉・保健・文化部会/地御前長寿連合会 編集・デザイン・イラスト/小林悠介 写真/地御前小学校児童



8 大歳神社

地御前の氏神で大年神を祀る神社。農業の守護神といわれ、大昔は四里の丘の平原に鎮座されていたが、寛政元年(一七九九年)南町の現在地に移されたといわれている。



10 龍宮神社

扇新開菜園の時、当地に鎮座された。祭日は旧暦の二月九日。



12 金剛寺墓地

金剛寺墓地には旧墓地と新墓地の二ヶ所あり、新墓地には戦没者慰霊碑がある。法要は八月十四日。また、旧墓地には洋画家の小林千古と作家の梶山季之の墓もある。



13 賽の神とハゼの大木

昔、宮内に通じるさいの時に、さいの神が祀られていた。さいは開所の意味で、他村から入る病や悪霊を監視し、旅人に憩いの場を与えてくれる神であるといわれる。このハゼの木は胸高幹圍三五センチメートルもあり、市の天然記念物である。



14 今市稲荷社

地御前今市にあり、全国の稲荷信仰の中心である京都の伏見稲荷大社の分神と伝えられ、五穀豊穡と商売繁昌を守る神とされる。安永二年(一七七三年)社を建て奉祀したと伝える。また、地御前の大歳神社の神輿渡御の現在の御旅所でもある。



15 ハツ面神社

ハツ面神社は、極楽寺山頂にある蛇の池に棲む大蛇を退治したところ、その首が地に飛び、大蛇を祀るものになったと伝えられるが、農業用水神を祀るものと思われる。古くは出雲政権時代の伝説を有する古社である。



16 神宮寺毘沙門堂

開基は定かではないが、仁安三年(一一六八年)の文書にみえる。本尊の毘沙門天は財宝の神としても崇められ、七福神にも加えられている。像高一二センチメートルの一本遣りで、平安時代後期の作と見られ、廿日市の重要文化財である。



9 地御前神社

推古帝の時代に厳島神社建立と同時に外宮として造営された。祭礼行事も多く、六月十七日夜の管絃祭の神輿渡御は平安朝の行事を再現して行われ、また、旧暦五月五日は境内において「馬とばし」と称される流鏝馬の神事が行われる。



11 一里標

明治時代になって、江戸時代の西国街道が廃れ、海岸沿いの道が完成した。この一里標は広島市の元安橋東詰の元標を基点として四里約一六キロメートルの位置に建てられたものである。



7 釈迦堂

本尊は釈迦如来座像、丈六像といわれる仏像で、像高二三〇センチメートルという、広島県下では他に例を見ない巨像である。寄木造りで、室町時代中期を下らない貴重な大作。